



【自主 敬愛 勇健】～生徒も教師も生き生きと活動する学校～

<校長講話より> ～いつも誰かに支えてもらっていることを忘れずに生活していこう～

残暑の長かった夏が終わり、秋を通り越して、あっという間に寒い冬が訪れたような今日この頃です。暑さや寒さを忘れさせてくれる生徒の朝の元気な挨拶に、私はいつも心の中で感謝しています。この時期は、インフルエンザ等の感染症が流行する時期ですので、私たちも生徒も、体調管理をしっかりと行いながら、生活していきたいと思います。昨年度は、文化祭が終わった直後にコロナウイルス感染症が職員にも生徒にも広がってしまい、複数の学級が閉鎖になってしまいました。今年度はそのような事態にならないように、上田市内の学校や近隣の学校の状況をこまめに確かめながら、感染防止に努めてまいります。

さて、校長講話では、生活のキーワードである「思考・感謝・笑顔（S・K・E）」をテーマにしてお話をしてきました。「思考」と「笑顔」についてはお話ししましたので、今回は、「感謝」をテーマにして校長講話を行いました。私たちは自分一人の力で生活

しているのではなく、誰かの力を借りて、あるいは誰かに支えてもらいながら生活しています。改めて、自分の生活を思い返し、このことについて感謝の気持ちをもってほしいという内容を生徒に伝えました。下記に講話の大まかな内容を記載しますので、ご家庭での会話の話題にいただけるとありがたいと思います。

■私たちは、自分一人の力で生活しているのではなく、誰かの力を借りながら、または、支えてもらいながら生活している。朝、明るく学校へ送り出してくれる家族の方、授業で力がつくようにサポートしてくれる先生方、私たちが安心して生活できるようにと見えない所で働いてくださっている地域の方々、そして、学校で楽しく会話してくれる友達。色々な人にお世話になっているはずである。このことは、これからもずっと続いていく。言い方を変えれば、私たちは決して一人ぼっちではないと言える。だからこそ、まわりにいてくれる方々に感謝の気持ちをもって生活していきたい。

■「たった一言が人の心を傷つける。たった一言が人の心を暖める」という言葉は、教室にも掲示してあるので知っていると思うが、言葉の力はすごいもので、たった一言が、人の人生に大きな影響を与えることもある。私は中学校時代に、友達に数学の問題に解き方を教えていたら、「よく分かった。お前は教え方が上手だね」と言ってもらった。この言葉は、私に大きな自信を与えてくれて、自分の生き方を考えるきっかけとなった。誰かに言ってもらえると、心が暖まる、嬉しくなる、元気が出る、そんな一言を皆さんにも思い浮かべてみてほしい。

■「ありがとう」「ありがとうございます」という言葉は誰もが思い浮かんだことと思う。短くても、人の心を動かす言葉だと私は思っている。朝、元よく挨拶してくれる生徒に「明るい挨拶がいいね」と伝えると、「ありがとうございます」と何人も返してくれる。私はさらに嬉しくなり、もっと褒めてあげたいという気持ちにいつもなる。

生活のキーワード

思考・感謝・笑顔

[S・K・E]

【K】

感謝

私たちはいつも誰かに支えられて生きている

私たちは決して一人ではない



たった一言が人の心を傷つける

たった一言が人の心を暖める



感謝の言葉とは

単なるマナーではなく、相手を大切に思う心や支えられていることに気づく心があってこそ、出てくる言葉

■普段の生活の中で、どのくらい「ありがとう」「ありがとうございます」を人に伝えることができているか。支えてもらっていることを「当たり前」のことと思っていると、なかなか感謝の言葉など出てこない。感謝の言葉は単なるマナーではなく、相手を大切に思う心、自分が支えられていることに気づく心があってこそ、出てくる言葉だと私は思っている。

(この後に、以前に勤めていた学校で、担任から聞いたある家族のエピソードを伝える。※紙面の都合で割愛いたします)

■「おかげ様」「お互い様」「お疲れ様」という言葉を聞いたり、使ったりしたことがあると思うが、すべて感謝する気持ちから生まれた言葉である。

『「おかげ様」…まわりの方のおかげで今の自分があるという感謝の気持ち』

『「お互い様」…支え合うから楽しく幸せに生活できるという感謝の気持ち』

『「お疲れ様」…今日もみんなのために頑張ってくれたという感謝の気持ち』

日本人は昔から、人と人との温かいつながりを大切にす文化を育んできた。だからこそ、このような言葉が今も生き続けている。これらの言葉を使う場面が多くなっていくと思うが、心を込めて伝えられるようになりたい。

■皆さんの誰もがいずれ社会に出て、多くの人と関わり、協力しながら生きていくことになる。感謝の気持ちを伝えられる人かどうかは、その人の人生を左右すると言ってもよいほど重要な意味をもつ。社会では、自分一人ではできないことが多くある。誰かが支えてくれたときに、素直に心を込めて感謝の気持ちを伝えられる人は、周りから信頼され、応援され、よりよい人間関係を築くことができ、どんどん前に進んでいくことができる。反対に、「やってもらって当然」という気持ちをもってしまうと、人との関係は薄れてしまい、孤立してしまうことも出てきてしまう。感謝の気持ちは、自分の心を豊かにし、人生を温かく、強くしてくれる力、未来を切り拓き、明るくしてくれる大きな力になる。

●皆さんには、心を込めて、感謝の気持ちを言葉や行動で伝えられる人になってほしい、そして、感謝の気持ちをたくさん伝えてもらえる人になってほしいと願っている。「ありがとう」「ありがとうございます」は、言葉は短くても、皆さん自身とまわりの人たちの心をきっと温かく包み込んでくれるはずである。これからの生活の中で、感謝の言葉がたくさん行き交うように、私からも、皆さんに感謝の気持ちを伝えたい。「毎日、暑い日も、寒い日も、雨や雪の日も、元気に学校へ来てくれてありがとう」そして「今朝は、私の話を集中して聞いてくれてありがとう」

【おかげ様】

まわりの方のおかげで今の自分があるという感謝の気持ち

【お互い様】

支え合うから楽しく幸せに生活できるという感謝の気持ち

【お疲れ様】

今日もみんなのために頑張ってくれたという感謝の気持ち

感謝の気持ち

自分の心を豊かにし、人生を温かく、強くしてくれる力

未来を切り拓き、明るくしてくれる大きな力

感謝の気持ちを言葉や行動で伝えていきましょう。
そう伝えてもらえる人になりましょう。

<上田市小学校連合音楽会の様子から>～6年生の美しい歌声に心が洗われました～

上田市内の小学校の合唱演奏の交歓会が上田市サントミュージゼで行われました。私は昨年度も鑑賞しましたが、今年も丸子地区の小学校が出演する午後の時間帯に向き、6年生の演奏を鑑賞してきました。小学生の子どもたちの透

き通るような歌声に心がすっきりし、爽やかな気分になりました。中学生とは声の質が違うので、小学生ならではの合唱のよさを感じてきました。人数の少ない学校もあったのですが、ホールに音響効果も手伝って、ホール一杯に子どもたち一人一人の歌声が響き渡っていました。設備の整ったホールで演奏するよさも同時に感じてきました。ニコニコしながら、体でリズムをとりながら楽しそうに歌う子どもたちの姿がとても印象に残っています。丸子地区の塩川小、丸子北小、丸子中央小、どの小学校の6年生も上手でした。中学校入学後もさらに上手になる子どもたちの可能性を十分に感じとって帰ってきました。

※上田市小学校連合音楽会は、現在は小学校だけで行っていますが、昔は中学校の音楽会も行っていました。様々な理由でなくなってしまったのですが、他の中学校の演奏を聴く機会がどこかであるといいなと思っています。きっと中学生にとって学ぶことの多くある会になるはずです。



塩川小



丸子北小



丸子中央小